

平成29年度第2回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成29年8月2日（水）午前10時

場所：犬山市役所501会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 委員 村上恵美子 委員 高木浩行 委員 千葉桂子

 委員 紀藤統一 委員 奥村康祐

アドバイザー 犬山高等学校長 祖父江泰浩 犬山南高等学校長 木和田晋弘

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課

松田課長

井出課長補佐

渡邊主査

【教育部】

吉野教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課

武藤課長

神谷主幹兼指導室長

田中課長補佐

記録者 井出修平 渡邊 樹

傍聴者 5名

◆次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 議題

(1) 教育振興基本計画の見直しについて

(2) 教育施策の検証について

(3) 民間教育者との意見交換について

4 報告事項

(1) 城東中学生徒の事故死について

5 自由討議

6 その他

7 閉 会

◆会議要旨

議題(1) 教育振興基本計画の見直しについて

今回事務局から提示された骨子案をベースに、定例教育委員会や総合教育会議で出された意見を踏まえて、事務局で取りまとめることとした。

【主な意見】

- ・施策の体系のところに「学びのまちづくり」のキャッチフレーズを入れてもらいたい。
- ・「めざす姿」を提示するのが表現として厳しいということであれば、もう少し柔らかい表現を検討する余地はある。
- ・「地域像」「家庭像」の中に「感謝」という価値観を反映してもらいたい。
- ・「家庭像」は、親も子どもから成長させてもらっているという部分も踏まえた内容にしてもらいたい。

議題(2) 教育施策の検証について

議題(3) 民間教育者との意見交換について

10月から12月にかけて、小中学校PTA役員、地区委員等を対象とした「保護者アンケート(A)」、進路説明会に参加した2・3年生の保護者を対象とした「保護者アンケート(C)」、学習塾関係者、近隣高等学校教員等を対象とした「教育関係者等へのアンケート(B)」を実施し、1月に教育委員会と外部教育関係者との懇談会を開催する。

懇談会のテーマは、アンケートの結果を踏まえて検討することとした。

【主な意見】

- ・ 県立高校は3学期制なので、小中学校で2学期制、高校で3学期制の両方を経験した保護者からアンケートをとれるとよい。
- ・ 実際に経験している子どもにもアンケートをとった方がよい。
- ・ いろいろな角度でアンケートをとった方が、本質が見えてくる。
- ・ 2学期制における評定の付け方に関する説明をアンケートにつけた方がよい。

◆会議録

司 会 (松田企画広報課長)	皆さん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
司 会	<p>ただいまから、平成29年度第2回犬山市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>開会に合わせて1点、お願いを申し上げます。本会議は、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づきまして公開とさせていただきますが、本日の次第4でございます。報告事項「城東中学校生徒の事故死について」につきましては、個人の秘密を保持する観点で一部非公開とさせていただきます。つきましては、お手元の次第をご覧くださいと思っておりますが、本日の次第の順番を入れ替えまして3の協議事項の後に続いて5の自由討議を行います。その後、次第4の報告事項とさせていただきます。その際、報告事項につきましては、滝教育長からの説明。この説明が終了した時点で非公開とさせていただきます。つきましては、傍聴人のみなさま、そして報道機関の皆様にはその時点でご退席をいただく形になります。格段のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、あわせてインターネットの映像配信サービス、ユー 스트リームにつきましてもその時点で非公開とさせていただきます。休憩をとりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでははじめに山田市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
山田市長	はい。みなさん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
山田市長	<p>総合教育会議ということで、教育委員の皆様方には定刻通りご参集いただきまして、ありがとうございます。また、アドバイザーとしてご指導いただいております両校長にもありがとうございます。また、冒頭ちょっと遅れまして大変申し訳ございませんでした。</p> <p>さて、今日、いろいろ議題がございますけれども、先日、緊急の総合教育会議を開きまして、今回の報告事項にもございますが、城東中学校生徒の事故死ということで、緊急の総合教育会議でいろいろ情報を共有させていただきました。その後のこともございますので、また後ほど協議をしていきたいというふうに思っております。私ども</p>

	<p>としては、この会議の中で、私も以前の会議で申し上げたと思いますが、やはり未来を担う子どもたち、とにかくその子どもたちが命を落とすことがないようにということをやはりこの中でも申し上げたことがあったと思いますが、今回のことも踏まえて、正にこれから犬山の人づくりということはどうしていくのか、ということ私たちとしてはやはり前を向いてしっかり大人がそういった子どもたちの未来のためにもしっかりした社会を作っていかなければいけないということを改めて感じているところですが、今日の協議事項もそういったところにも繋がっていく部分だと思いますので、また皆さんとしっかり議論をして、前を向いて一緒に進んでいただきたいと思います。また今後もご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。では、よろしくお願いします。</p>
司 会	はい。続きまして、滝教育長、よろしくお願いいたします。
滝教育長	はい。では、みなさん、改めましておはようございます。
出席者	おはようございます。
滝教育長	<p>今年の夏休みは悲しい出来事で幕を開けたわけでございますが、この度の一件では皆様方に多大なるご心配と一方ならぬお支えをいただきましたことをこの場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。</p> <p>先回の臨時総合教育会議の折にそこまでの時点では報告をさせていただいたわけですが、その後の対応につきましては、後ほど報告事項の中でお伝えをさせていただくつもりでおりますので、よろしくお願いをしたいと思います。</p> <p>さて、夏休みも4分の1が過ぎまして、いよいよ8月に入ったわけでございますけれども、小学校では水泳指導或いは学習支援、中学校でも部活動の大会。それぞれの学校で学習支援の取組みがなされておりまして、子どもたちの学びを支える取組みが進んでおります。特に部活動の大会については少しお時間をお借りして報告をしたいと思っておりますけれども、犬山中学校については管内大会であります3つの優勝旗を取ってきております。男子のバスケットボール、男子の水泳、男子のサッカー、それから剣道の個人の部では二人が2位に入っておりますけれども、あと5つの種目で3位をとっております。女子のテニス、男子のテニス、男子の卓球、女子の卓球そして男子の剣道ということで、犬山中学校ではそれぞれこれらの部活動が西尾張大会等に参加をしていったわけですが、残念ながら西尾張では結果を出せずに県大会へ出場することは叶わなかった状況でございます。また城東中学校でございますけれども、これも3つの優勝旗を取ってきております。女子のバレーボール、女子のハンドボール、女子の卓球。特に女子の卓球部においては10連覇ということで、なかなか達成できるものではありませんが、10年間連続して夏の大会ー管内大会では優勝をしてきておるといことであります。また女性のバレー部については西尾張大会でも優勝をしておりまして、昨日の段階で県大会ベスト4に残っております。既にこの時点で東海大会への出場を決めているわけですが、本日岡崎で準決勝・決勝が行われます。子どもたちは優勝旗を持ち帰ることを目指してがんばっているところでございます。また、城東中学校については水泳男子、水泳女子、野球、ソフトボールについては2位ということで準優勝盾をもらってきておりまして、ソフトボールについては西尾張大会で優勝をしております。残念ながら県大会では結果が出せなかったんですけれども、そんな状況でございます。また男子のハンドボール、男子の卓球についても3位ということで西尾張に出場しております。南部中学校の関係でありますけれども、2つの種目で優勝旗をとってきております。1つがソフトボール。1つが女子</p>

	<p>のバスケットボールであります。ソフトボールについては西尾張大会で2位という結果を出して、更に県大会に出場し、県大会でも2位ということで次の東海大会へ進む予定でございます。また、女子のバスケットボールは西尾張大会3位という結果でございます。それから男子のバレーボールが2位、男子のバスケットボール、男子のソフトテニスで3位ということで、それぞれ西尾張大会には出ておりますけれども、西尾張大会では惜敗というような情報をいただいております。東部中学校もそれぞれ頑張ったんですけれども、検討むなしく西尾張には出場は叶わなかったという状況でございます。また西尾張の吹奏楽の大会であります。これについては市内4中学校であります。城東中学校は残念ながら銀賞という結果でしたが、他の3校については全て金賞で県大会へ進むということで、それぞれ運動の部活動も文化部の活動も子どもたちは本当によく頑張ってきたな、という結果を出してくれました。日頃の練習の成果が結果として表れて子どもたちも達成感を感じているだろうな、ということをおもっております。また、教育委員会としても子どもたちの活躍を大変うれしく思っている次第でございます。まだまだ1ヶ月近い夏休みが残っておりますけれども、子どもたちの学びの連続性・継続性に配慮をしながら有意義な日々を過ごさせていきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。どうぞ、よろしくお願いたします。</p>
<p>司 会</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日、田中委員でございますが、ご都合により欠席となっております。なお、田中委員からは、本日の会議に合わせてご意見を頂戴しております。各お席の方に配布をさせていただきました。なお、本日犬山高等学校の祖父江校長先生、そして犬山南高等学校の木和田校長先生にもアドバイザーとしてご出席をいただいております。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。既に配布させていただきましたが、次第、名簿に続きまして、本日2種類の資料がございます。資料の1が「犬山市教育振興基本計画（犬山かがやきプラン）」こちらの改訂版の骨子の案でございます。続いて資料の2でございますが、犬山の教育施策に関するアンケートの案でございます。なお、追加でお手元の方には報告4に関する「心の健康調査票」を配布させていただきます。よろしかったでしょうか。</p> <p>それでは議事に移らせていただきます。これ以降は、犬山市総合教育会議運営要綱の第3条に基づきまして、市長に議事進行をお願いいたします。</p>
<p>山田市長</p>	<p>はい。では、協議事項を進めていきたと思いますが、「教育振興基本計画の見直しについて」ということで、議題とさせていただきます。</p> <p>まず事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (武藤学校教育課長)</p>	<p>それでは犬山市教育振興基本計画（犬山かがやきプラン）の見直しについてご説明いたします。以後着座にて説明させていただきますので、よろしくお願いたします。</p> <p>はじめに資料1をお願いします。教育振興基本計画の骨子案につきましては、先月の定例教育委員会でご協議をいただき、骨子そのものは基本的に「これで」ということで、ご了承をいただきましたので、次回第3回の総合教育会議にはある程度全体像をお示しできるよう、引き続き事務局での作業と教育委員会での協議を進めていく予定となっております。なお、先月の定例教育委員会の協議の中では第2章の2「めざす姿」に位置づけを予定している「めざす家庭像」や「地域像」などについて、「教育委員会できらすべき」というのはおこがましい感じがする」とか、「ふわっとした表現にして、受け取る側がどうとるかというようなもので良いのではないか」といっ</p>

	<p>た意見や、「昨年の大綱の議論の中で「振興基本計画の中に明確に位置づけるから大綱には載せない」という市長との約束事だった」という経緯の話。「学びのまちづくりを考えた時の「家庭像」や「市民像」なら考えられるのではないか」、「現在の計画のように長文ではなく、「こういった子ども」、「こういった学校」というように理想の姿を端的な表現で記載するようにしたらどうか」こういったご意見が出ました。</p> <p>次に資料1の裏面になりますが、「犬山市教育基本計画に位置付ける基本理念の実現に向けためざす姿について」をお願いいたします。上3つは現在の計画や「学びの学校づくり」などでうたっている「子ども像」、「教師像」、「学校像」で、これについては、当初作成したものがそのまま変更なくきているというのではなく、例えば「子ども像」の最後の部分に昨年策定した大綱に合わせて「感性豊かな」という表現を追加するなど見直しをかけ、バージョンアップをしているものになっております。下の破線のアンダーラインの引いてある「めざす教育委員会像」、「地域像」、「家庭像」、「行政像」については、昨年度の大綱の議論の中で計画に位置付けるものとして上がっていたもので、教育委員の皆さんから出されていた意見などをベースに協議のたたき台として提案をさせていただいております。本日はこの「めざす姿」を中心にご協議いただきたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いいたします。説明は以上になります。</p>
山田市長	<p>はい。事務局から説明がありました。定例教でもご議論があつてその一旦を今、報告もありましたので、それと重複しないご意見があればご発言をお願いしたいと思います。</p> <p>特に皆さんからよろしいですか。</p> <p>はい、村上委員。</p>
村上委員	<p>はい。先ほど事務局からご案内がありましたが、昨日の夕方、お手元に配らせて頂いておりますが、配布していいという、印刷用ということで田中委員から……。お読みいただければわかるかと思いますが、資料をお配りさせていただいております。というような意見がありました。</p> <p>あとは、今、市長さんからは重複しない範囲でということだったんですが、これから1つずつ詰めていくわけですが、前回も若干申し上げたと思うんですが、例えば犬山の総合計画だとかそれから子ども未来課の方の計画ですね、こちらの方にはある程度の数値目標とかそういったものが出ていますので、今後犬山市全体の子どもたちの姿を紹介するという意味で、子どもたちの数の推移―「何年にはこれだけになります。何年にはこれだけになります」というような資料というものは巻末に加えていただきたいな、というふうに思っております。</p> <p>それから、後で気が付いたことですが、第3章の「学びのまちづくり」に関わってくることだと思いますので、施策の体系のところに「学びのまちづくり」という教育委員会がこれまで守ってきた文言というか文章というかキャッチフレーズというか、その辺りを入れていただければな、と思います。</p> <p>あとは、これから出てくるとは思いますが、今まででもありましたが「学びの心を育む」というところに―今回の事件もありましたので、もうちょっと今までも触れられているんですが、心の教育というか、そういう部分もちょっとボリュームを膨らましていただきたいな、と。事後そう思いましたので、その辺りを事務局の方でまたお考えいただけたらと思います。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。</p> <p>他にありますでしょうか。よろしいですか。</p>

では、今まで定例教の方でも出された意見だとか、今の村上委員の意見とか、田中委員からも文書が出ていますが、僕の方からも若干。まず、「めざす姿」というのは、先ほど定例教で出された意見もありましたけれども、「めざす姿」として提示していくのはちょっと表現としてきついな、と。「きついな」ということであれば、もう少し表現の仕方を考えてもそこはいいのかな、というふうには思います。「めざす」というか「求められる要素が“何か”」ということだと思っんです。ただ、それぞれの主体にこれからどういうことが求められていくのか、どういうことを我々として取り組んでいかなければいけないのか。それはやはりそれぞれ何らかの形で位置づけはした方がいいと思うので、それを「何々像」、「何々像」、「これを目指すんだ」というふうな表現ではなくて、もう少し皆さんとして和らげた方がいいということであれば、そこは考える余地はあるのかな、というふうには思います。今、具体的にこうした方がいいとかということはありませんけれども、ご意見を踏まえて、そういうことも検討する余地はあるのかな、というのが意見です。

それから「教育委員会像」というのがあるんですけど、大綱の時にも議論があったんですが—教育委員会だけではなくて行政全体もあるので、大綱の中には両方書いていますので、ここも少し表現としてはもう少し考えてもいいのかな、というの思っています。

それから「めざす姿」—「何々像」というのがあって、その表現をどうするかというのはこれからまた検討ですけども、ここに出されている資料に基づいて意見を出させてもらおうと、「めざす子ども像」というのは、もちろんこれから教育の取り組んで行く施策というのは、子どもだけではなくて社会教育だとか歴史・文化もあるので、子どもだけにそこを特化していいのかということもあるのかな、と今、なんとなくそう思ったので、人づくり全般の考え方も必要かな、という気はします。

それから子どもだけではなくて人というのは、この中で大綱でも「生涯にわたって自ら学びつづける」というのは前の振興計画でもそういうフレーズがあったんですが、今回は「感性豊かな」というところが加わったわけなんですけれども、重要なのは「何を学んでいくか」なんですよ。「何を学ぶ」というのは、歴史を学ぶとか数学を学ぶとか、そういうことではなくて、どこにポイントを置いて学んでいくかということが“感性”なんです—と僕は思っんです。だから「どこに力点を置くのか」というのは、僕は“感性”に力点を置くべきだと思っんですよ。ところがこの「めざす子ども像」というのは、99パーセント“自ら学ぶ”というところにあるんですけども、感性は最後に付け足しでボコッと付いただけ、みたいな……ではないです。99パーセントまでというのは極端かも知れませんが、7割、8割は感性だと思っんです。それは僕の考え方なので、少し言いたいことだけ言わせてもらいます。

それから「教師像」も「自ら学び続ける教師」というのは、非常に重要な前提だと思っんですけれども、わかる授業、面白い授業が重要で、伝わらないとダメだと思っんです。色んなことが。授業だけではなくて、それ以外の学校生活もいろいろあると思っんですが。場合によってはこれは教師だけではなくて保育士というものもあるかも知れませんが。伝わるということは—僕は「大綱でも言っているんですが、感動が共有されない限り伝わらないと思っんです。だから授業づくりの中には、教えよう伝えようとする側が自ら感動していないと、相手の心には響かないと思っので、感動の共有ができるかどうか—自ら感動する主体になっているかどうかということが重要ではないかな、と。「伝わる授業」と「楽しい授業」—そういったところをどうやって作っていくのか、というのは、教師自体が今、伝えようとしていることの中にどう感動を見出していくのか、というところが重要なのかな、と思っので、それを少し

	<p>言っておきます。</p> <p>それから学校と目指す教育委員会とかーそれが目指す行政像なのかどういふふうかわかりませんが、基本はいかに情報を共有するかということであつたり、今の取組みを「見える化」していったり、或いは何かそこでトラブルがあつたりミスが起きた場合にいつも言うんですが、逃げない、隠さない、ごまかさない。それからやはり絶えずその課題について真剣に向き合う姿勢というのが、ここは絶対重要になってくると思うので、そういう要素がないと「通いたい学校」だとか「通わせたい学校」だとか「信頼される学校」だとか、そういうことにはならないかな、と。或いはそれは学校だけではなくて、行政であつたりということになると思うんですが。そういうことです。</p> <p>あと「地域像」とか「家庭像」というのは、非常にいろいろな捉え方があると思うんですが、なかなかこれを1つのイメージに統一するのは非常に難しいと思いますが、僕は「感謝」というところが非常にここは重要で、「感謝」という価値観をこの両面にきちっと反映した展開をしていかないとなかなか難しいのかな、と思うんです。少しザクツとした話ですけれども、そういうことを思いました。</p> <p>それから3章なんですけれども、ここもそうなんです。「学び、学び、学び」とくるので、とにかくこれからの目覚ましい技術の進歩だとか或いはグローバル化だとか、そういったことをそういった時代にはやはり「感性」が求められてくるので、「感性」というものに力点を置いた組立てをしていかないと取り残されるのではないかな、と思うんです。先駆けていくためにはここに「感性」ということをもっともっと位置づけをしていく必要があるのかな、というふうには思います。</p> <p>少しいろいろ申し上げましたが、私なりにたたきの案に対して思ったことを述べさせていただきましたので、またいろいろ皆さんの方からご議論というのはあると思いますがお互いに意見交換しながら着地点を見出していけたらな、と思います。あくまでも一方的にそこを述べさせていただきました。何か皆さんの方からそれも踏まえて追加で発言があればお聞きしたいと思います。よろしいですか。</p>
村上委員	1つ。
山田市長	はい、村上委員。
村上委員	<p>市長さんがおっしゃったのは、地域・家庭の「感謝」という価値観を広げるというので、ごめんなさい。いまいち……。今度また教育委員会でいろいろいただいた意見で議論していかないといけないと思うので、ここは少しわかり辛くて。</p> <p>子どもたちが感謝する心を忘れない。</p>
山田市長	<p>いやいや。家庭であつたり、地域であつたりなので、そこは子どもや人が育つ場でもあるわけですから、そこにあるのは、やはり自分が何故そこで……。どうやって生かされているのかということをちゃんとわかっていないとダメだと思うんです。「自分だけ良ければいいんだ」とか、そういうことではなくて、やはり自分が生かされている環境—家庭であつたり、地域であつたりというのは。だから、そういった感謝という気持ちがそこに絶えずあることで、支え合いの心というのが育まれていくのではないかな、という意味です。</p>
千葉委員	いいですか。
山田市長	はい。
千葉委員	<p>私は反対に「感謝の気持ちを持つ」ということはものすごく分かるんです。反対に。というのは、登下校にしろ見守りをしていただく方に毎日お世話になっているということで、感謝の気持ちや、今だったらコミュニティで夏まつりなどが行われます。や</p>

	<p>はりあれだけのものを企画・運営していただくには皆さんの力がないと。そこへ子どもたちが加わって楽しい場を提供してもらおうということが皆が一例えば楽田だったら楽田のコミュニティの方がいろいろな準備をしてくださって、そこで遊べるというか、楽しい思いができるという、そういうのを自然に身につける「感謝の気持ち」。言葉では感謝というのは、なかなか「感謝しなさい」「ありがとう」を言いなさいって親さんは何でもすぐ何かをしていただいたり、してもらおうと「ありがとう」を言いなさいーではなくて、自分の中から湧き出る気持ち。それが大切だから、私はそれはわかるんですー市長が言われることが。ただ思うのは「感性」というのは、なかなか言葉にはできないものなんです。今の感謝と一緒に、やはり受け取る側の気持ちだから、「感性」というのは辞書で調べれば出てくるんですけれども、人それぞれの取り方によって変わってくるものですから、それを文章化するというのは、なかなかー私は文章力がないのであれなんですけれども、難しいことかな、と思うものですから、ある程度のボン、ボン、ボン、ボンを作って、そこからどう受け取るかという筋道立ては出来ても、バシッとはできないのではないかな、と私は個人的に思っています。</p>
山田市長	<p>はい。わかりました。ありがとうございます。 他によろしいですか。</p>
奥村議員	<p>では。</p>
山田市長	<p>はい、奥村委員。</p>
奥村議員	<p>はい。先ほどの「めざす家庭像」の中に全体的にみると子どもが学んで欲しい、成長して欲しいというような意味合いが強いんですが、親も子どもから成長させてもらっている部分が多いと思うので、そういった部分も少し踏まえたような内容にしていたらと、やはり親もー保護者もいろいろ、子どもと一緒に成長して行って、より良いふうにするというのが、やはり家庭だと思うので、そういった所に入れていただけたらと……。地域もそうなのかな、と思うのですけれども、そういった所が入れていただければな、と思います。</p>
山田市長	<p>そうですね。</p>
奥村議員	<p>はい。</p>
山田市長	<p>親育ちみたいな要素ですかね。</p>
奥村議員	<p>そうですね。</p>
山田市長	<p>他によろしいでしょうか。</p>
村上委員	<p>すみません。</p>
山田市長	<p>はい、村上委員。</p>
村上委員	<p>先ほど市長さんが「「めざす」と言う言葉には固執しない」と。「もう少し違う言い方でもいい」というような話があったので、その時に例えば「地域の皆さんは、こうしましょう」、「子どもたちがちょっといけないことをしたら声をかけてください」。家庭なんかだと、「こうでありますから、家庭では「今日何があったの?」と聞くぐらいのことはしましょう」とか平坦な言葉で言う。</p> <p>あと「感謝の気持ち」というのは、子どもが自然に出てくるというのは、やはり親の教育であったりとか、学校での教育であったりとか……。また「感性」という言葉にしても小さい頃の過程でのいろいろな教育であったりー「こういうことをしたら、こうしてああして、こうするからダメなんだよ」ときちっと説明する。例えば授業なんかだと前から話題になっているような国語力ですよ。今度もお話しますが、国語の時間に「鑑賞する」という授業が少なくなって、段落ばかりプツンプツンと切って、</p>

	<p>「物語全体を読んで鑑賞するという一何かそういう国語は無くなりましたよね」と教育事務所の国語の先生とお話をしていたんですが、小さい頃は童話などを読んで、結構自分の気持ちとか……何か読むと「うわあ」、「えー!」、「嫌だ」とかその場で表現できることが段々、大きくなると文章も長くなったり、プツンプツンと段落で切ると国語のいろいろな鑑賞—「こうで、こうで、こうで」と自分の中で組み立てていくというのがないので、その辺り「感性」という言葉であるならば、授業のところで少しそんなようなことを入れると……。これは「情報化」と結構対義語で言われます。情報化が進んでいくとFace-to-Face でなくなるし、「感性」というものが……という部分が出てくるので、その辺り、少しちりばめられる所にちりばめていけばいいかな、とは思っています。</p> <p>「感謝する心」というものを「めざす地域」「めざす家庭」—言葉を変えるにしても、「どういうふうがちりばめるのか」というのを結構……。本人の持ちようなので、親がいつも「こういうのは「ありがとう」をいいなさいね」とか……。 「「ありがとう」という言葉をいつも言いましょう」とかそういうキャッチフレーズならわかるんですが、これから教育委員会で多分いろいろ詰めていくかと思えますが</p>
山田市長	<p>今の話の答えになるかどうかわかりませんが、例えば「「感性」も少しわかりにくいね」とか、何かわかりやすく表現できるといいんですけど。どこの大学だったかわからないですが、ある大学の学長先生かどうかわかりませんが、その人の卒業式の時のお話が今、ネットで非常に話題になっているんです。文学部—今、非常にイノベーションが求められている時期に大学教育の中に「文学」というのが本当に意味があるのかということで、存在意義が問われていると。そういう中で「何故文学部の学問が必要なのか」ということを学長先生が卒業式であいさつしているんです。それは「人生の岐路に立った時に本領を発揮する」と言っているんです。例えば恋人に振られた時とか、仕事に行き詰った時だとか、親と意見が合わなかった時とか、配偶者と不和になった時とか、自分の子どもが言うことをきかなくなった時だとか、親しい人と死別した時だとか、いろいろな人生が進んで行く中でいろいろな場面に遭遇するのだけれども、文学で学んだ事柄が問題を考える手がかりになる。きっとそれを与えてくれるということを挨拶にされている。ネットでものすごくそれが「いい挨拶だ」と言って評価されているんですが。僕はそういうことが非常にこれから求められる時代になっていくのかな、と実は思っているんです。だから、今の議論の答えにならないかも知れないけれども、「感性」とか我々の「人間関係」というのは、そういうところがきちっと上手くできていかないと、社会というのはどんなに技術が進んでも上手く回っていかないのではないかな、というふうに思うんです。だから、そこを我々はしっかり「人づくり」の中で方向性をもって取り組んでいかないといけないとちょっと思うんです。</p>
高木委員	いいですか。
山田市長	はい。
高木委員	<p>「どう生きていくか」—生き方というか、それをやはり子どもたちは学んでいくであろうと思うし、先生たちも「どう生きればいいのか」というのは常に教えてみえると思うんです。だからそれを今、「感性」とかそれこそ「感謝」とか「感動」とか本当に「感」という言葉の意味合いというか、同じ言葉が全部付くわけですが、それを—同じ議論になってしまうのですが、文章として言葉として表すのは本当に難しいな、というのが感想です—ということだけ、オチまで付けましたけど思いました。</p>
山田市長	「こう生きなさい」「こうやりなさい」というのは、なかなか表現しづらいところ

	<p>だと思っんですけれど、さっき言ったように、だけでも「感性」だとか「感動」だとか或いは国語教育だとか、そういうことというのは、何か自分たちが課題にぶち当たって、何らかの価値判断なり、判断をしなければいけない時に答えを見つけてくれるものがそれではないかというふうに思っています。</p>
高木委員	<p>だから常に教育活動の中で先生たちが「思って居続けてくれれば」と願うわけですが、もちろん知識を単純に授業の中で教えているわけではないし、それを通して生き方を教えるという大前提があるということをやはり常に思っていますので、そこら辺の言葉がなんらか何か上手く表現できるといいのにな、ということ……。すごく曖昧なんですけれども、言い方として思います。</p>
村上委員	<p>それで、『(会報)市町村教委』の中に『教育の不易』というので感性を育てるといことで、梶田叡一さんかな？が書いておられますので、また皆さんにお示しします。結構いいヒントとかいい言葉が単純に書かれています。またその辺はピックアップします。</p>
山田市長	<p>あとは、よろしいですか。</p> <p>では、今、いろいろ出ましたが、またそういった意見を踏まえて事務局の方、今のものをまたまとめていただくよう、お願いします。</p> <p>それでは、協議事項2と3というのは一緒にやるんですかね？ 関連があるので。</p>
事務局	<p>はい。</p>
山田市長	<p>協議事項2の「教育施策の検証について」とそれから3の「民間教育者との意見交換について」というのは、関連する部分もありますので、まず事務局の方から一括して説明をお願いします。</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>失礼します。今、ご指摘いただいたように関連がありますので(2)と(3)を同時に説明をさせていただきます。着座にて説明をさせていただきます。</p> <p>「犬山の教育施策に関するアンケート」。アンケートは3種類です。</p> <p>1つ目は、「保護者アンケート(A)」と示してあるものです。小中学校PTAの役員、地区委員を想定しています。子ども未来園、犬山幼稚園のPTAの役員も含めてはどうかというようなご意見もあります。約300名を想定しています。主な目的は「2学期制を中心とした犬山の教育施策に関する意識調査」。これは、この後行われます教育懇談会などの資料としていきたいと思ひます。2つ目。その右側に表記してあります「保護者アンケート(C)」です。約700名ぐらひを想定してあります。対象は進路説明会に参加しました2年生、3年生の保護者です。10月の下旬から11月の上旬に各中学校で行われます3年生の生徒と保護者を対象とした進路説明会の折に聞くものです。目的は進路指導に関する意見集約。不安に思っていることなどを聞き取るものです。2学期制への不安と進路に関しての不安とを切り分けたいと思ひます。もう1つ「教育関係者等へのアンケート」これを(B)としました。対象は学習塾経営者、近隣高等学校教員等々、そこに示させていただいた方々を想定してあります。およそ子どもたちの教育や成長に携わっていただいている方たちを対象としてあります。これもこの結果を受けて懇談会の資料づくりとしたいと思ひています。</p> <p>懇談会の日程については、裏面の4番のところですか。先に話させていただきます。期日は1月としました。定例教育委員会では、これを12月とさせていただいていたと思ひますが、諸般の事情から1月ほど遅らせていただくよう直しました。参加者は懇談会参加者の認識がずれていましたので、ここで改めて「教育委員会と学校以外の教育関係者との懇談会」ということで提案させていただきます。参加者に関しましては、アンケートに参加していただいた方の中から希望者全員というのは、なかなか難しい</p>

	<p>と思っているので、抽出をして15～20人と考えています。懇談会の対象者は広く求めた方が犬山の教育に対して幅広い意見を拾うことができるだろうという趣旨も含まれます。方法は教育委員会と外部の教育関係者との懇談会をイメージしています。アンケート結果を踏まえて、テーマについては今後決めていきたいと思っています。</p> <p>実施までのスケジュールです。1ページ目の3番からをご覧ください。8月21日の定例教育委員会でアンケートの内容をほぼ決定し、それを9月の4日、校長会でも諮り、そして最初にアンケートA、保護者－PTAの役員等に行うアンケートですが、それを9月から10月に実施し、10月下旬に進路説明会が行われますのでアンケートCを実施。11月中旬に教育関係者へのアンケートを発送し、12月中旬に集約をいたします。そして1月に懇談会を設けようと思っています。</p> <p>当初の予定よりも調査が大規模になっていますので、配布、集計作業を再検討して、進めなければいけないと思っています。今日はスタンスをとりあえずお示しさせていただき、アンケートの回収・集計等々に関しましてはこの後の議論とさせていただきたいと思っています。</p> <p>7月の定例教育委員会では、このようなご意見をいただきました。「アンケート結果にコミットできる核を持って調査をするべきだ。」。事務局としましては3学期制に戻すこともありえるぐらいゼロベースで考えた姿勢でアンケートを執り行い、そして進めていきたいと思っています。</p> <p>次に「保護者アンケートの対象が「2、3年生の保護者」という意図が分かりかねる。」というご意見がありました。先ほどのAとCの切り分けによって、対応しているつもりでいます。</p> <p>もう1点。「2学期制の是非について」というアンケートは少し後ろ向きではないか。今ある制度をよりよく運用するためのアンケートの方がいいのではないか。」「進んできた時間が巻き戻されてしまうのではないか。」、このようなご意見をいただいたのの説明となっています。説明は以上です。</p>
山田市長	<p>はい。説明は終わりました。</p> <p>少しこの件について意見交換をする前に私も少し進行を誤りまして、協議事項1で「教育振興基本計画の見直しについて」、アドバイザーの両先生からもし、何かお感じになられた点、ご意見等があれば、折角の機会ですので、もしあればまたお願いしたいのですが、どうですか。振興計画に関して。</p>
木和田校長	<p>先ほどの「感性」ということで少し気付いたんですけども、皆さんが言われるようにやはり「感じる心」を作るのが一番大事ではないかと思っています、子どもたちに「感じる心」という部分で。人や物事に「感じる心」一気づきさえあれば、その事に気付くことによって、それで考えて行動に移すことができると思いますので、「感性」、「感じる心」、そんなような言葉で表すといいかな、と思ったんですけど。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>祖父江先生は？</p>
祖父江校長	<p>「めざす」といった辺りが私も少し気になったところがございます。特に「めざす教師像」というところがどうかな、ということを実は思っておりましたが、ただ皆さんの意見を聴いていまして、「ああ、いろいろ配慮があるんだな」ということを思いました。そういった皆さんのお考えが反映されれば私はいいかな、と思いますが。以上です。</p>
山田市長	<p>ありがとうございます。また参考にさせていただきたいと思います。</p> <p>では、今、2と3を事務局の方から合わせて説明がありましたけれども、これにつ</p>

	いて皆さんの方から何か意見があれば、ご発言をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。
奥村委員	いいですか。
山田市長	はい、奥村委員。
奥村委員	<p>この保護者アンケートの対象が小中学校のPTAさんということになっているんですが、今の小中学校の子どもたちでいうと、ほぼ100パーセントが2学期制しか知らない状態で、保護者さんは自分の経験が3学期制だけというふうで、実際に2学期制の中で生活をしていない親がアンケートをするということに対して「どうなのかな」というところが1つ。</p> <p>もう1つ、もしできれば、高校生一ちょうど南高校と犬山高校は3学期制なので… …ですよ。</p>
木和田校長	そうです。県立全部ですが。
奥村委員	<p>なので、そういった保護者さんだと2学期制を小中学校で経験したまま次に子どもが3学期制に移って、「3学期大変だな」ということなのか「3学期の方がいいのか」という……。うちの子どもの感想なんですけど、「3学期制はテストばかりあって、エラいな。と。テストが終わったらまたテストという、中間・期末で1ヶ月から1ヶ月半おきに大きなテストばかりやって、テスト・テストばかりだ。区切りばかりがあって、2学期制の方が良かったな」というのが、うちの子の感想なんですけど、そういったところも踏まえて、両方経験した保護者さんからアンケートをとれるような一もしご協力いただけるなら犬山市出身のお子さんのみえる保護者さんからとれるともう少し両立的な意見がとれるかな、と思います。</p>
山田市長	<p>はい。私もそれは同じような感じを持ちまして、内々にこの件で話をしていたんですが、「そういう対象はできないの？」という話はしましたけれども。もう少し対象者は実際に2学期制のメリット・デメリットがわかる取り方をしないといけないですね。ちょっとそこはまた考えてください。できるのにも限界があるかも知れませんが、少し工夫していただきたいと思います。</p> <p>あと、何か、皆さん、よろしいですか。</p>
紀藤委員	ちょっとよろしいですか。
山田市長	はい。
紀藤委員	<p>今の保護者は3学期制しか知らないですね。中学生が高校生になれば2学期制から3学期制になるので、子どもだと2学期制も3学期制も経験しているけれども、保護者は2学期制を経験している姿を見ているだけなので、子どもにもアンケートをとった方が正当なのかな、と。子どもたちはどう捉えているのか。「すごく長い学びができてすごくいいよ」と捉えているのか、テストの話も出ましたが、「テスト・テストでもう嫌だ」と思っているのかどうかなんです。私自身も3学期制しか知らないで、自分も経験していない。実際に子どもたちを見ていると他の市町から犬山市を見ていると2学期制だから他の市町の子どもたちは犬山市の子どもたちを或いは先生方でもいいと思うんですが、「どういうふうに見ているか」というのがわかるとよりいいのかな、と思うんですけれども。部活動をとりあげて考えるならば、だんだん管内大会が早くなってきているとはいえ、ちょうど期末テストをやる頃に1番大会がピークにくる時期なので、その時期に試験がなくて子どもたちは大会に集中できるという犬山市はいいな、と他の市町村から見ているとそう思いましたので、こちらは逆にいうと1学期の終わりに試験もあるから1週間の試験週間中も「1時間だけ朝練をやっているんですか」という先生方もいるので、「やらせたい」と。そうしないとテストばかり</p>

	で今度体力が衰えてしまって大会に間に合わないー体力づくりも。そんなことを考えると「犬山市はいいな」と「子どもたちも幸せじゃない?」。「先生方もそこに集中できるから」というようなー他から見ているとあるので、そんな感想を今度は犬山市の先生はどう思っているのかわかりませんが、ある面でいくと今の奥村委員の話からすると多面的に保護者だけでなくでもいいのかな、というふうに思いました。
山田市長	子どももということですよ。さっきの話は。お二人とも言ってみえるのは。
紀藤委員	そうです。
山田市長	或いは2学期制で育ってきた子が社会人になって、以前を振り返ってみると自分が育ってきた環境がどうだったのか、とか、そういうことも対象としてはありかな、と思いましたが。いずれにしてもいろいろな角度でアンケートをとった方がより本質が見えてくると思うので、そこは今のご意見を踏まえて、また工夫していただきたいと思います。 他によろしいですか。 はい、村上委員。
村上委員	反対に犬山にも他市町村から異動してみえてる方がいらっしゃるので、私も時々学校訪問の時に「どうです? 何々市に比べて犬山市の子は」と聞いているので、そういう意見を聞いても結構あれかなということと、犬山高校と犬山南高校の校長先生がいらっしゃっているんですが、今、ちょっと一私の理解が合っているのかどうかかわからないんですけど、保護者の方たちが2学期制だと……3学期制だと「内申点が2学期また頑張れます」みたいな……。2学期制だと「もうチャンスがないでしょう」みたいなそういう不安があって2学期制が毎年、毎年いろいろ出るんですが、議長のお許しを得て、差し支えなければ校長先生方に何かその辺りの感想と言ったら変ですけど、何かその辺りを……。安心材料というか……ないかな、と思って。
山田市長	どうなんですかね。
木和田校長	それはありますよ。学期ごとというのが区切りなので、学期ごとに「また次、頑張りましょう」という形でまた指導をしますし、それで保護者会があって、そこでまた指導をして、「2学期頑張りましょう」と。1学期が終わるとだいたい保護者会があるんです。保護者会があって、「では2学期頑張りましょう」と。2学期があって、2学期が終わると保護者会があって、「がんばりましょう」と。それで最後トータルという感じなので。3学期間トータルで……
村上委員	高校入試に関してはいかがですか。
木和田校長	高校入試……
村上委員	言える範囲で結構です。
木和田校長	はい。高校入試で……。やはり犬山市だけですので、あとは全部周りの学校については3学期制ということで、どの段階で成績指導をしているのかということ、高校側でわからない事もあるので、保護者会をいつ開いているのかということもわからないし、行くと市町によって違うので、保護者会の時期も全然違いますので、どの時点で指導をしているのか、それも実はわからないことがあるんです。だから、前期後期制と3学期制とやはりその時点では全然高等学校側ではわからない部分があります。高等学校は3学期ですので、それに慣れてしまいましたので、だから正直、そこまで……2学期制がわからないことがあります。
祖父江校長	一言だけ言わせてもらいますと、村上委員さんが言われたことが確かだと思います。例えば推薦を受けようとする、2学期制ですと評定が前期だけで付くんじゃないですか? 違いますかね。だから「挽回ができない」という言葉が悪いですけども、そ

	<p>ういった部分があります。3学期制ですと、1学期ダメだったら2学期頑張って挽回できるというような面はあるのではないのでしょうか。</p> <p>尾西地区がほぼ2学期制でやっています。違いますか？尾西地区というか、尾張…海部・津島……。</p>
滝教育長	海部地区は今年からです。
祖父江校長	海部は、そうですね。津島地区は確か全部2期制だったと思いますけれども、そういった悩みが大きいという思いがあります。
滝教育長	<p>ごめんなさい。今のついでと言っははいけません、折角おいでいただいているのに。</p> <p>結局、保護者は……前期の10月の時点の評定が高校へ行く。2学期制は、3学期制は12月の時点の評定が行く。最終的に公立高校というのは年度末のが行くんですけども、その辺りの2か月間の時差というのか、どの親さんも「この2か月間、うちの子たちは絶対成績が上がる」というふうに期待を持っていらっしゃるんです。ですから、10月の時点の評定が上がっていくのと、12月の時点の評定が高校へ上がっていくのを考えた時に「10月の時点というのは不利ではないか」というお気持ちをもっていらっしゃるのではないかということをするんです。その点は、例えば犬山の子どもたちが2学期制の評定をもって高等学校へ行きます。お世話になっています。他の市町は3学期制の状況で評定をもって高等学校の受験をするわけでありましてけれども、高等学校さん側から見られて2学期制は確かに不利だとか有利だとかという、言えることと言えない部分があると思いますが、その辺り、「全くそんなに差はないよ」というふうに思っておられるのかどうなのか、率直なその辺りのご意見が本当はお聞きできるといいな、と思います。</p>
木和田校長	率直に言うと全く同じ扱いですので、
村上委員	そうですね。
木和田校長	はい。何も一切つけません。全く同じで。
村上委員	当日の成績－学力検査の成績と、内申のいろいろな……
木和田校長	はい。さっきも言いましたけれども、犬山市であろうが小牧市であろうが、そのまま全く変わらないです。こちらがわからない部分がありまして、
滝教育長	同等に扱っていただいていると……
木和田校長	はい。全く同じです。先生方全員がそうです。
高木委員	<p>県立高校は全学期として出されるので、1年間の成績が多分行っていると思うんですけど。やはり問題は私立高校の方が程度……。私学の方が影響するのではないかな、ということが逆に思います。私立高校は今言ったように3学期制でいうと2学期－12月の成績が行くわけですので、挽回できたかどうか、親さんの気持ちからするとあるんだろうと。今、言った「10月の成績が……」という話にやはりなってきたので、そこら辺のところの不安は保護者にあるということなんだけど、よくこの定例教が終わった後にもいろいろと話をしているんですが、進“学”指導の部分の遅れがやはりあると思うので、多分、そここのところがあれなので、もう少し進“路”指導ではなくて進“学”指導の部分で、本当に2年生の後半の部分ぐらいから、やはりそれはそれで進めていくことが大事なのではないかな、ということの議論はしていくところです。</p>
滝教育長	<p>今、2学期制の話が出たんですけども、要は2つの側面から犬山の教育施策を検証していかなければいけないと思うんです。1つは、まず2学期制そのものがどうかということなんです。これは十数年2学期制できておりますので、ずっと犬山にお勤</p>

	<p>めの先生はこれが当たり前、「当然だ」という意識でみえるものですから、犬山が3学期制から2学期制に変える平成16年度の時点の当初の考え方をもう1度、教員自身が再認識をするということがまず大事だろうと思うんです。2学期制、3学期制といったです。それからもう1つの側面というのは……ごめんなさい。2つの側面と申し上げましたね。1つはだから「2学期制の是非」。これは「2学期制が当たり前だ」ということではなくて、本来、学校教育において2学期制が望ましいのか、3学期制が望ましいのかといったゼロベースで考えていかなければいけないのが1つの面であって、もう1つは「2学期制の是非」だということだと思っんです。だから、一方に偏って、もう2学期が大前提で犬山の教育にしてどうか、ということ、そういう一面的な検証でいくと2学期制が当たり前だと。問題点もあるのにそれについては目を向けずに今の体制でどうしたらいいかということも必要だけれども、もう一度ゼロベースで本来、学校教育においては2学期制がいいのか、望ましいのか、3学期制が望ましいのかといった視点、そういった面での検証が必要なので、少し扱いが難しいところがあるんです。だからアンケート調査も「2学期制についてどう思いますか」という単純な聞き方ではなくて、本来学校教育においては2学期制がいいのか3学期制がいいのか。特に最近、教員の多忙化というのが叫ばれております。先ほど紀藤委員からも「夏休みの前の時期というのは、通知表を付けなければいけない。保護者会の準備をしなければいけない。部活動の指導をしていかなければいけない。」3学期制の下では本当に中学校の先生方というのは多忙を極めている状況というのがあるんです。そんな中で犬山は2学期制をとって、比較的他の市町と比べるとその辺りの先生方の精神的な余裕というものが子どもたちの指導に反映されている。だからその辺りをこのアンケートによって両方の面から解明ができたらいいな、検証ができたらいいなかな、ということでもあります。</p>
<p>山田市長</p>	<p>今、おっしゃった話はそういう観点でまたやってもらえばいいんですけど、僕は、これは2学期制だけではないです。他のこともいろいろ取り組んできたことがあるので、当然2学期制以外のことも検証しなければいけないと思うんですが、今2学期制の話になっているので、少しあえて言わせてもらっんですが、僕は2学期制になる時に、議員でいたので、あの時に「何の為にこれをやるの?」、「何が目的なの?」という議論があったんです。その時の教育委員会の説明で一番強調していたのは「授業時間を捻出したい」ということ。「授業時間を増やしたい」「だから授業時間を捻出するために行事を少なくして、授業にそれを振り当てていきたいんだ」と。「何時間確保できる」とかそれが最大の強調点だったんです。それをアピールしていたんです。けど現実はそのようではない。今、論理がすり替わっているんです。途中で。「何の為にやってきたのか」ということが、ある時点から「多忙化」になってしまったり、何かになってしまった。もう1点、当初言っていたのは「評価」です。導入する時に「何故、これをやるの?」といった時に「評価」だった。「短期スパンでみると子どもの評価が適切にできないから、長期的なスパンで子どもたちを評価していこう」という2つの側面だったんです。それをやはりきちんと総括しなければいけないと思うんです。総括せずに何となく論理が違う方に変わって行って検証してというふうでは、正しくそれが伝わらないので、「当初はこういう意図で始めたけど、ここは効果がなかった」「ここは効果が出た」。そこをやはりきちっとやらないとダメだと思います。今までやってきたことが、いいこともあればやってみただけど上手くいかなかったということがいろいろあるんです。人間、どんなことでも。それは別にきちっと総括して軌道修正すればいいわけですから、そこを素直にやっていった方が僕はいいような気がします。</p>

滝教育長	<p>ちょっと市長に反論なんですけど、決して理論がすり替わったのではないです。3学期制から2学期制に移行する時には、確かに市長がおっしゃたように「授業実数の確保」や「評価の見直し」これがメイン。あまり表には出さなかったんですが、その辺りーやはり「夏休み前の教員の負担を多少軽減する」と。これは表には出さなかったんですけども、現場にいればこの時期の先生方の負担を軽減できるな、ということは当然、わかるわけです。ただ「先生たちが楽をしようとしている」というふうにやはり思われてはいけない部分もあるものですから、本来は、本当の願いは「授業実数の確保と評価の見直し」なんですが、だけど表には出さないけれども、その部分もなかったことはないんです。今、こういう時代になってきたものですから、この部分というのは、やはり隠さずにある程度表に出して理解をしていただけるような時代になってきたものですから……。</p>
山田市長	<p>教育長、それはわかっているんです。実はわかって言っているんです。というのは、行事や評価が減れば、教員の負担だって減る。だけど、僕が言いたかったのは、「何でこれをやるの？」と最初にー「何の為に」、「何を目的にやるんですか？」と言った時に、最初から「負担軽減だ」と言っておけば良かったわけです。それも入れておけば良かったんです。</p>
滝教育長	<p>そうかも知れないですね。</p>
山田市長	<p>しかし、当時の時代背景の中で、おっしゃったように「何だ、先生が楽するためにやるだけがや」と言ったら受け入れられるかと言ったら、あの当時の時代背景だったら、それは受け入れられなかったかも知れないです。なので、そういうことも含めてやはりきちっと検証した方がいいし、恐らくこれからの時代というのは、批判を恐れずに「何の目的で何をやるのか」というのはストレートに表現した方がこれからはいいと思うので、決して……僕も少し表現が悪かったかも知れませんが、もともとにそういうことを言っていないと、結果論だけ見ると「論理が変わっていつてしまった」と映ってしまうので、だから決して否定する意味はないですが、ストレートにそこはやった方がいいと思います。</p>
滝教育長	<p>確かに市長がおっしゃったように、当初のねらいが本当に達成できているのか。そのねらいに沿った2学期制になっているのかどうか、という検証はやはり1つずつしていかなければならないし、2学期制に限らず少人数学級、少人数授業、TTのための常勤講師、非常勤講師の配置についてもやはりそうだと思います。多額の市費を使って、独自で常勤講師、非常勤講師を雇って子どもたちの指導をしているわけですので、本当にその効果があるかどうかということも含めて評価を今、進めているところでもあります。</p>
山田市長	<p>はい。他によろしいですか。 奥村委員。</p>
奥村委員	<p>この保護者さんのアンケートに対して、多分1番不安な部分があるからそういう所をちゃんと見直してほしいという思いだと思います。私も息子が今、中3で、受験の時なので、この2学期制で評価というのはどうなのか、ということが不安なんです。ですが、こういった場でいろいろと聞いているので、自分自身が納得できているので、そういった2学期制の本当の意味と言いますか、そういったところを今一度アンケートの中でも入れていただくー「2学期制というのはこういうふうで評定を出していくので大丈夫です」と。例えば私が伺っている内容でいくと、3学期制ですと2学期の間にー子どもから言うと2学期から頑張る。2学期だけ頑張ればその結果をもって高校に行くーだから急に2学期だけ1学期よりも夏休みが終わってからバーンと頑張</p>

	<p>るということではなくて、この2学期制の意味合いというのは、1学期の中間が終わった時点で良かったところ悪かったところを先生が夏休みの前までに一緒に生徒に「こうしよう。夏休みの間にここを伸ばせば、期末の時にはこういうふう伸ばせる」それでやれるということ。それで、中間テスト、期末テストだけではなくて、途中、途中のテストで本当は全体の評定が出るのに、中間テスト・期末テストだけで結果が出ると思っている保護者さんも多いので、「そうではないよ」というところも踏まえての評定の出し方というのは、こう出しているんで、「2学期だけ頑張るとかというわけではないよ」という本当の子どもの成長、伸び代を見るために夏休みにどう伸ばせばいいかということがちゃんとできること。それをするためにはやはり先生たちの時間のゆとりの持ち方が大事だということを僕は聞いているので納得ができています。でもこれがわからないという保護者の方がほとんど多分全部だと思うんですけど。今一度それをアンケートに説明というか何かそういったものを付けていただくと「ああ、こういうふうなら安心だわ。いいよ」となるのか、「それでもちょっと……」と思われるのか、皆さんの判断になると思うので、それがわかっていない。入学式に—中学1年生の入学式の時にいくら説明を受けても。3年生でいざとなった時に忘れてしまっていると思うので、今一度そういったところを踏まえてしていただくと保護者さんが安心してやっていけるのかな、と思います。</p>
山田市長	<p>はい。アンケートするためには、判断材料というか、判断の元になる前提の説明というのは必要だと思います。そこは少し工夫していかなければいけませんね。</p> <p>他によろしいですか。</p>
千葉委員	<p>いいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
千葉委員	<p>アンケートをとるにあたって、もう1度考えたんです。これはものすごく早急になってしまっているんですが、今更そんなことを……。私はもう1回本を読み直したんです。教育経済の先生の。やはり今、教育長も言われたように少人数学級—学級は今、子どもが減っているので、故意的にやらなくても少ないんですが、授業、TTやはりそういう人的な配置をここまで投資—投資と言っではいけないんですが、市の財産を使ってやっている。その検証を見直すアンケートでもいいのではないかと私は思っているんです。それを—極論ですが、それをやめてその経費でクーラーを付ける。で、「それでどうなったか」とかそのくらいのアンケート結果が出るようなものをどうせならやった方がいいのではないかな、と私は心を持ってこの本をもう一度読み直したんです。それで「そうだ。やはりそれを今度言おう」と思って今日、来たんですけど、このスケジュールでは今更難しいかも知れませんが、せっきくアンケートをするのなら、やはり科学的根拠のデータが出るような……。このデータが出たから「では、こういうふうには今度は見直してみよう」というとか「この予算をこちらに使ってみよう」とかそういうこともするいい機会かな、と私は思ってしまったものですから、今更そんな意見を言っではいけないんですけど、思い直しをしました、現実。</p>
山田市長	<p>なかなか、こういう環境の下で教育を受けてきたということが、その時点がいいのか、その環境下で育てて将来、成長した後こういう人間になっていったというか、教育の成果というのは、どこでそれを見るのかというポイントもあると思うんです。本当はもう少し今の犬山の教育環境の下で育った子どもたちのフォローアップというか後の彼らが高校へ行って、大学に行っとか社会人になってというところのその情報がもっとキャッチできると何か見えてくるものもあるのかな、と思うんですけども。</p>

	はい、他に。 紀藤委員。
紀藤委員	<p>はい。先ほどの2学期制の話に戻って申し訳ないんですけど、市長さんが言ったように全国的に2学期制に変わっていった時には「時間数の確保」というのが全面に出ていました。それで3学期制の学校では、「ではどうするか」と言ったら、終業式のある日も午後からの式にしようとか、午前中に2時間でも授業をやろうとか、そういうふうに切り替えていった学校もありました。でもやがてやはり子どもたちが終業式の日には授業をやっても乗らないということで、「式だけにしよう」とまた改めなおした所もありますけど、犬山市の場合は、特にテストの回数が減るからー大きなテストー期末テストの回数が減るから、単元テストに確か力を入れて、子どもたちの評価のスペンを短くしていたと思うんです。ですから、前期・後期制にしても前期の中に何回も単元テストを行ってきているので、本来の子どもたちの評価がしやすいのではないかな、と外から見ていてそう思いました。3学期制の学校は確かにさっき言ったようにテスト、テストで評価を大きいテストだけでいいのかな、と。単元テストもやるけれども、そういう評価の仕方だけでいいのかな、という思いもしておりました。でも、こうやってずっと犬山市の教育を見ながらくると、子どもたちはやはり安定して学習ができる。時間をかけてできるというという部分で僕はいいようなふうに思うんです。ただ、それを保護者がどう捉えているかということを知りたいと思います。子どもたちもどう捉えているかということを知りたいと思います。ですからこのアンケートをやっていただくことには大いに進めていただきたいと思いますけれども、どう表現するかという、今度はアンケートづくりがすごく重要になるかな、と。アンケートの書き方で随分どちらにでも転びそうな感じがしております。これから後、検討していくということですので、内容をまた見せていただいて、折角検証するというので、いい検証ができるように進めていただきたいと思います。</p> <p>それから事務局の方から「3学期制に戻すことも覚悟の上で」ということを言われたんですけども、それはそれでよろしいんですか？ もしアンケートの結果がそういうふうであるならば、2学期制が3学期制に……そういうのはないですか。</p>
山田市長	<p>恐らく……僕もそれは「3学期制に戻せ」と言っているわけではないのですが、アンケートをとる時に、「今が素晴らしい」と。だから“今”を前提にー「“今”をいい」と評価してもらうようなアンケートのとりかたをしてしまうといけないので、もう少しそこをフラットな形でやりたいという意図でおっしゃったのではないですかね。</p>
滝教育長	<p>はい。少し神谷先生がおっしゃったのが十分理解が……。何かと言いますと、現時点で私が学校現場を見ながら「2学期制をとって良かった」と思っているんですけども、ただ、私と同じような思いを保護者の方や地域の方、市民の方が皆さん思っただらっしゃるかという、決してそうではないと思うんです。だから、「2学期制大前提」ということではなくて、あれは私が極端な話をして、それこそ「2学期制の良さを再認識していただくには、一度3学期制に戻すのも1つの手だよ」と。</p>
村上委員	それはちょっと……
滝教育長	<p>極端な話ですよ。現状に満足されている方と現状に満足されていない方がみえる。今、「2学期制に賛成」という方は現状に満足されてみえます。ところが「3学期制に賛成」という方は現状に不満を持っていられっしゃいます。だったら、これを3学期制にしたらどうだ、と。2学期制を肯定される方は新たな現状に対しては不満をおっしゃいますよね。3学期制の方は、それに対して何もおっしゃらない。だから極端な</p>

	<p>話です。だからもっともっと……学校現場にお願いしているのは、本来の2学期制にした時の決意を再度振り返って保護者の方や子どもたちに「2学期制ってやはりいいんだな」ということを実感していただけるような取り組みを再度しよう！ということで、この年度からスタートしていることはしているんです。ただ我々はそう思っているんですが、大前提ではいけないものですから、「ゼロベースで見直すこともしてみよう」ということなんです。</p>
村上委員	<p>はい。まずはアンケートを初めて試みて、その結果を見て、どういう意見が出るかというので、「どういう不安があるか」というのをまた1つずつ解消していけばいいんだと思います。まずは初めての試みで、広くということをお願いします。今度21日にまた議論させていただきます。</p>
山田市長	<p>この件についてはいいですか。みなさん、よろしいですか。 今、教育長もおっしゃったんですが、交互にやってみるというのも面白いかも知れませんがね。1年は3学期、2年は2学期、3年は……。何だったら4学期もやってみてもいいかも知れません。何でか交互に。</p>
紀藤委員	<p>制度をいじるということはものすごくエネルギーが要るんです。また問題が出てくると、こういうふうにするので、今の2学期制の問題が進学指導という言葉も前からずっと出ているので、そこを改善すると上手く乗り切っていけるのではないかな、と。今にマッチしているような気がするので言わせていただきました。</p>
山田市長	<p>はい。では、いいですか。この2、3については、よろしいですか。 はい。では、アドバイザーのお二方からもし何かお感じになられる点があれば、ご発言を。どうでしょうか。 無ければ……。祖父江先生どうですか。</p>
祖父江校長	<p>2学期制、3学期制の件ですが、学校の先生に採るという、そういった計画は特にはないんですか。</p>
山田市長	<p>アンケート？</p>
祖父江校長	<p>はい。</p>
山田市長	<p>採るんですよね？</p>
事務局 (神谷学校教育課主幹)	<p>はい。今回のアンケートは転出入した教員です。1年でだいたい30人ぐらい犬山と市町を超えて転出入していますから。過去3年間にわたって、約90名ぐらいになると思います。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
祖父江校長	<p>ありがとうございます。</p>
木和田校長	<p>1つ高校の場合の今、県立高校は全て3学期制なんですけれども、結局進学の部分があるんです。1学期の成績が出まして、1学期の成績が内申点になって大学進学、それと就職の関係に出します。大学進学は推薦等々でそこで出しますので、そういうことで1学期の成績が全部出ていく形です。3年生の1学期と1、2年生のトータルということで内申点が作られていると。これを全部出していくわけですので。そういう意味で3年生の1学期まででないとなかなか成績分は難しい部分で3学期制というのが実はあるわけです。今度は4大とかの一般入試がありますが、一般入試の場合には、これは3年生の2学期までの成績を出すという形ですので。もし前期・後期でやっていたら、前期は間に合いますけれども、実際に今も非常に動きが早いので、1学期の段階ですぐ成績が必要だということで、2学期の9月から実際に内申を出すという形に就職はございますので、そういう部分もありまして、それで3学期制という形になっております。ちょっと参考までに。</p>

山田市長	はい、ありがとうございます。 では、2、3については終わらせていただきたいと思います。「協議事項」は以上となります。 続いて順番の入れ替えで「自由討議」ということですが、この際、皆さんの方から何かあれば。 申し訳ないですが、ここは発言は簡潔に。少しここから時間の関係もありますので、自由討議。何かあれば、皆さんから発言をお願いしたいと思います。
村上委員	1点だけ。
山田市長	はい、村上委員。
村上委員	前回の総合教育会議の時には、例の保育士さんの「高校生の人たちにもう少し魅力を」ということを案じていたのですが、いつも思うのですが、城下町に行きますと、結構若い方とかいろいろな方がいらっしやって、例で申し上げますと磯部邸なんかでも呈茶の幾ら出して「お茶を」というのがあるんですが、高校生の方たちのボランティアとかそういう町の歴史―犬山ならではのところで、そういう活動の場というのか、ボランティアというのかどうか分からないんですが、今、大学も高校も結構、地域に先生がプロデュースして参加するということがありますよね。小中学生やよそからみえた方も地元の高校生というとか少し愛着が湧くものだから。何かそういうような事はあるのかな？と。それだけお聞きしたい。
山田市長	はい。簡潔にお願いします。
木和田校長	はい。夏まつりボランティアとか、あとは今、インターシップで幼稚園に行ったりそういうこともやっていますけれども、希望者は集まっているような形でそういうことはやっています。
祖父江校長	保育士さんとボランティアというのが、ちょっとわからなかったんですが。
山田市長	要するにもっと地域レベルでしているか、ということだと思えます。
村上委員	そうです。高校生が参加していただけますかね。というそういうことです。
祖父江校長	本校でもいろいろやっています。
山田市長	結構いろいろなところに来ていただいています。
村上委員	そうなんですか。
滝教育長	踊芸祭というお祭りで犬山高校の子たちがボランティアでゴミ拾いを。
千葉委員	マラソンはあれで……
祖父江校長	マラソンもやって……
村上委員	それは良く存じ上げているんですが。
山田市長	障害者の方のところで行事をやられたりもしているし、結構……
村上委員	そうなんですか。
山田市長	我々がいろいろな行事に行くと、高校生たちが居ると。ただ、高校側がどう思われるかわからないですが、もっともっと巻き込んでいきたいな、とは思っているので、無理のない範囲でいろいろまたこちらからも投げかけをしていきたいと思えます。
村上委員	よろしくお願いします。
木和田校長	犬山シティマラソンは開設からずっと本校と犬山高校と3校でやっていますけれども、ずっとやっていますので、
村上委員	それはよく存じています。応援ファンファーレも。
木和田校長	そうです。
村上委員	ありがとうございます。
山田市長	他によろしいですか。自由討議、この際です。

	はい、紀藤委員。
紀藤委員	自由討議というか、お願いなんですけど、小中学校が夏休み中でプール指導をしていると思うんですけども、今日、三重県の方で水泳指導中に事故があったという報道がされたので、緊急だけれども、やはりそういう事故が起きないようにもう一度教育委員会から各小中学校にプールの監視体制について確認をしていただけたらな、と思っております。
山田市長	<p>これは実は、少し前に教育長に僕も申し上げたんですけども、砲丸投げの練習をしていて、子どもに当たったんです。たまたま重大なことにならなかったのが良かったんですが。それからまたこの間、テニスの関係で熱中症になったのかな？ 何人かが。管内大会に行って。やはりどこにどういうリスクがあって、その時に現場で何をしなければいけないのかというのは、それは完璧にはいかないかも知れませんが、色んな例が全国にあるはずなんです。そうするとどこにどういう危険が潜んでいて、その危険に対してどういう備えをしなければいけないかというのが、きっと見えてくると思うので、単に「何もなかったから良かったな」だけではなくて、どういうふうなしくみでやるかということを考えなければいけないと思います。個人の認識で「気を付けましょう」というのはかなり限界があるので、例えばそういう時に今おっしゃった「監視体制をどうするか」とか、しくみとして環境としてどういうものがそこに必要かというものを考えていかないと、やはり何か起きてしまうので、とにかく「命を守る」と。「命を守るために何が必要なのか」、「どういう備えが 필요한のか」、「どういう意識が 필요한のか」。それをいろいろしっかり考えていかなければいけない。確か全国のそういう事故事例というのはあるはずなので、文科省が取りまとめているはずなので、ああいうのをきちっと検証した方がいいんです。なので、そういうことがあって、また同じような事が起きてしまうとそれは人災みたいになるので、そういうことのないようにだけ、しっかり現場で対応していただきたいと思います。</p> <p>あと何かありますか？</p> <p>よろしいですか。</p> <p>少し僕の方からですが、これは、申し訳ないですが、高校の方からお二方みえていて、実はある経営者の方から「なんで高校はバイトが禁止なんだ」という話があって、今、禁止なんですよね。たまたまうちの子どもが行っている高校は禁止なんですけど、禁止なんですよね。</p>
祖父江校長	基本は禁止で届出制という……許可制と言った方が。
山田市長	許可制……
木和田校長	同じく許可制です。
山田市長	許可制なんですか。では、うちの子のところもそうなのかな？ 一般的にそうなんですか、県立高校は。
祖父江校長	基本的にそうなんじゃないですかね。
木和田校長	そうですね。ある場合は、申請をしてもらって、許可をすると。例えば経済的な事情というのが……
祖父江校長	ありますね。
山田市長	原則禁止で「何か事情がある時は認めるよ」という運用ですね。ということは原則禁止なんです。
祖父江校長	そうです。前提としては。
山田市長	原則OKというふうにはできないですか。
祖父江校長	「学校生活を大切にしてください」という……

木和田校長	学業が優先。
祖父江校長	そういうことです。
山田市長	昨今の労働力不足というか、経営者の方も人が集まらないという時代に入ってきて、日本社会全体の中で労働力をどうとらえるかということが目の前の課題になってきているので、学校も大事にしなければいけないし、どうなんでしょうね。そこは……。禁止がいいのかどうなのかというのは何か議論があってもいいと思うんですが。
奥村委員	いいですか。経営側からしてみれば、それを高校生のアルバイトに頼るのは僕は間違いだと思います。
山田市長	ただ、そういう力を欲している業界もあるわけなんです。経営もいろいろな経営者の方がみえると思うんです。専門的な技術が必要で、ある程度積み重ねてきた経験がないと出来ない業種もあると思うんですけど、やはりマンパワーとして、それを求めている業界も当然あるわけなので、原則禁止というのがいいのか、選択を……。それを高校生に頼るとかではなくて、必要とする人たちがいて、働きたいという人たちもいて、ちゃんとそれが選択できる社会であっていいのかな、とは思うんですけど。「さあ、お前ら働け」とか「俺のところでお前は働け」とか、何も強制する意味では無くて、今は選択の余地がない状態ですよ。だから、それがいいのかな、というふうには思うんですけど。あくまでも問題提起なので。どうなんでしょう。経済界の中にも一定の声が今、出てきているのではないのでしょうか。そういう空気は感じますけど。
村上委員	昔と違って高校へ全員が行くという……。私たちの頃は中学を出て働くというか、せいぜい進んでインターンシップで将来自分がこういう職業がいいな、ということでできれば卒業して、大学進学なり、正規の職員として頑張ってもらおう。やはり「原則バイトをやっていいですよ」というと夏休み中だけならいいんですが、普通の授業や何かの時だといろいろなバイトをやって、授業中に寝たりとか、そちらの方が刺激があってお金も入るし……。というふうになるのを心配して「原則禁止で」というふうになっているのではないかな、と。
山田市長	僕が思うに、ゼロか100かというのがダメだと思うんです。だから今、許可制と言いつつも、基本的にはダメだと思うんです。現実。だから、ゼロか100かではなくて、今、おっしゃったように例えば夏休み中や短期でもいいですが、一定の条件のもとでは、それを求める人がいれば一お互い。経営者側も子どもの側も一子どもの側でも「経験としてやりたい」と思っている子がいっぱいいます。僕の周りでも原則だめだけれど、もぐりでやっているという一学校の先生も「悪いけれども、目につく所でやるな」とか。ニーズはあるんですよ。だからそういうふうにしてしまうよりも、何となくもう少し緩めてもいいのかな、という気はするんですけどね。あくまでもここで「そうしろ」と押し付けているわけでは決していないので、
村上委員	県立高校は統一ですから……
山田市長	現実問題、そういうふうになんぞがあるような気がするんですけども。「そういう経験をさせたい」という親があったり、「働きたい」という子どもがいたり、或いは「マンパワーとして欲しい」という経済界があったり、なのでゼロか100かということではなくて、もう少し上手く学校生活が損なわれない範囲で何かもう少し緩和できる方法はないのかな、とかね。
祖父江校長	例えば短期ということ言えば、郵便局のアルバイトがありますけれども、それは認めています。
紀藤委員	企業にもよりますよ。子どもがいいように使われてしまって、変な方向に進んでし

	まうのだったら、絶対にやらせるべきではないと思うし、それを学校側がいちいちこの企業はブラック企業ではないですが、全部審査するのは到底不可能だし。
木和田校長	平日はどうしても夜ですよ？夜の仕事になってしまうので、平日の場合は。
山田市長	わかりました。あくまでも問題提起なので、自由討議ですから、少し勝手な意見を申しあげましたけれども、問題提起として、また受け止めていただきたいと思います。あとはいいですか。 はい。では、自由討議を終わらせていただきます。 続いて報告事項になりますが、「城東中学校生徒の事故死について」ということで、これはまず教育長から？報告が。
滝教育長	はい、それでは私の方から報告をします。
山田市長	プライバシーに係わる前のところまでですね。
滝教育長	前のところまでです。
山田市長	では、お願いします。
滝教育長	はい、7月21日に事件がありまして、それ以降ですね、城東中学校の武内校長が教育委員会に参ってですね、今後の対応について、教育委員会が指示をしたと言いますか、協議をして、「今後このように取り組むように」という指示をさせていただいたんです。それは6点ありますので、その大まかなことについては、お話をしたいと思います。 まず、1点目でありますけれども、亡くなった生徒の保護者の心のケアと亡くなった生徒の当日或いは前日を含めたところでの家庭での様子について、一度家庭訪問をして、事情を聴取してほしいというお願いをいたしました。 2点目であります、身近な友達への心のケア。これを含めてですね、事故が起こる前までの友人間でのラインのやり取りの内容について、わかる範囲で情報を集めてほしいという依頼をいたしました。 3点目でありますけれども、現場マンションに住む友人ーと言いますか、同級生が何名かおられますので、その友達との接触が、事が起こる前にあったのかどうかということを確認してほしい。もしあったということであれば、その内容についてわかる範囲で聞き取ってほしい。 それから4点目でありますけれども、学校に通う全部の生徒或いは保護者の心のケアだとか、今回この件が起こった原因究明のためにアンケートを実施するーそのアンケートの内容或いは進め方について、教育委員会とスクールカウンセラー等外部の方のご助言もいただきながら検討をしていくということですね。 それから、5点目ですが、スーパーバイザーを県から派遣していただきましたので、その方からはどのような指導助言があったのか、ということをもとめておいてほしいという依頼をいたしました。 最後、6点目でありますけれども、夏休み中に生徒や保護者へのカウンセリングを行うための体制の整備をしてほしいという依頼をしました。 これは武内校長にお願いをした件でありまして、一方で、神谷主幹についてはですね、犬山警察署に出向いて行って、それまで教育委員会がつかんでいる以外の情報ももしあるようだったら、情報収集をしてほしいという依頼をいたしまして、神谷主幹が犬山警察署へ出かけました。 今お話した細かな内容については、個人情報にかかわる部分でありますので、とりあえず、私からの報告はここまでとさせていただきたいと思います。以上です。
山田市長	はい、それでは、これ以降は個人情報に関連することになりますので、非公開とさ

	せていただきたいと思います。傍聴人並びに報道機関の皆様には、ご退席をお願いしたいと思います。
	－以降、非公開－